様式第１号（第１０条関係）

2024 年度業務実績報告書

提出日　　2025 年　1 月　18 日

１．職名・氏名　　准教授　上木 礼子

２．学位　　学位　修士　、専門分野　看護学　、授与機関　福井大学　、授与年　2005 年 3 月

３．教育活動

(1)講義・演習・実験・実習
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 看護管理（1 単位　4 年前期集中）
②内容・ねらい（自由記述） 内容:看護サービスを提供していくための看護管理の概念、看護の提供システム、看護サービスの質保証を学ぶ。質の高い看護サービスを提供するための看護職者の役割を看護管理の視点から考える。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 統合実習の位置づけであり、管理の視点でそれまでの実習等経験を振り返ってみて、理解を拡張してもらうワークを行った。また外部講師として PNS(パートナーシップナーシングシステム)開発に関わった橘先生を迎え、システム発展の背景や特徴についての理解を深めた 【ゲストスピーカー 1 名】
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 健康生活支援演習(1 単位 1 年前期(分担)
②内容・ねらい（自由記述） 内容:学習したコミュニケーション技術を踏まえて地域で暮す高齢者との交流を行い、生活環境や人々がかかえる生活・健康上の問題について理解し看護学を学ぶための基礎力を養う。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） 初回授業に”演劇ワークショップ”を導入、コミュニケーションの根本となる身体動作を考えるとともに、クラスメンバーの関係性構築にも役立ち、その後の演習がやりやすくなった。 今年は毎年交流している永平寺町健康長寿クラブの企画により、大本山永平寺参拝を含めた交流会を実施。キャンパスがある永平寺町文化財と地域の理解を深めることができた 【ゲストスピーカー 1 名、フィールドワーク 1 件】
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 基礎看護技術（2 単位、1 年前期（分担）、臨床看護技術（2 単位、1 年後期（分担）新カリキュラム
②内容・ねらい（自由記述） 内容：基礎看護技術は病床環境の整備と衣生活の援助の項目を担当。臨床看護技術は排泄の項目と呼吸・循環・体温異常の看護を担当した。ねらい：受講生がすでに学習している解剖・生理と関連して、根拠を踏まえた看護技術の基本が理解できる。
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・ オンラインへの変更もしやすいよう講義日と演習日にわけて内容を組み立てた。実際は対面で講義・演習ができたので指導しやすかった。 ・ 動画教材配信の契約がなくなった分を書籍や Web サイトの情報で補った。動画教材は情報量も多く初学者にイメージを持たせるのに効果的であり今後も有効に活用していきたい。 ・ 演習は既存のシミュレーターを十分活用でき学生間に不公平が起きないようにプログラムを工夫した。実技テストを設定していたので学習意欲は高く維持できた。 ・ 昨年に続きロールプレイを取り入れ、グループで議論し、患者役と看護師役に分かれて考えたケアを実施するという一連の演習で、思考過程と実践の連携を体験してもらうようにした。

①　担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 基礎看護学実習Ⅰ（1 単位、1 年後期（分担）・基礎看護学実習Ⅱ（2 単位、2 年前期（分担） 看護マネジメント実習（2 単位、4 年前期（分担）
②内容・ねらい（自由記述） 内容：県内総合病院での臨床看護実習 ねらい：基礎看護学実習Ⅰでは医療施設、看護師の役割を理解すること、基礎看護学実習Ⅱでは、受け持ち患者に対して看護過程の展開ができること。看護マネジメント実習では病院組織における看護管理とケア提供システムの運営について実際を通して理解すること。
②　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・マネジメント実習は 6 月 7 月の上旬に前半 2 施設、後半 2 施設で 2 週間ずつ実施しそれぞれの施設の特徴を学内演習で共有できるよう工夫した。 ・病院施設の感染対策指針にも基づき、実習前行動の注意や体調管理に留意しながら実施した。 ・基礎看護学実習Ⅱは福井県立病院と福井赤十字病院での実習を担当。学生と患者のコミュニケーションや情報収集・アセスメントを支援した。また受け持ち患者以外にも看護師について技術を体験する時間を設けたことで、1 年次の総括として学びが深まった。 ・基礎看護学実習Ⅰはこの報告書記載時点でまだ実施していないが、感染症予防策に留意しながら、学生が事故なく自律して実習に臨めるように取り組みたい。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 卒業研究（3 単位、4 年次）
②内容・ねらい（自由記述） 内容：看護研究へ自律的に取り組み成果を発表する ねらい：研究的態度、基本的な研究の進め方を実践を通して学ぶ。
③　講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・学生の探求したい意欲に添えるよう外部業者へのインタビュー等に協力した。 ・本年度は基礎領域内で研究発表会を実施できた。調査研究を中心にひととおりの研究過程を学ばせることがきたので、目的は達成された。 ・できる限り対面での指導をこころがけて、学生の反応を確かめながら進めていった。
①担当科目名（単位数）　主たる配当年次等 災害看護学（1 単位、4 年次）
②内容・ねらい（自由記述） 内容：災害看護に関わる基本的な知識を理解し、災害時に看護職の果たす役割を知る ねらい：過去の災害時の活動内容等から学び、シミュレーションによる実践力向上を目指す
③講義・演習・実験・実習運営上の工夫（自由記述） ・災害看護に関しては実習による学びが不可能であるため、シミュレーションによる演習プログラムがある。今年は福井県赤十字社の協力を得て、避難所運営ゲームを取り入れ当事者としての動きをシミュレーションで学んだ。 【ゲストスピーカー 1 名】
(2)その他の教育活動
内容

4．研究業績

(1)研究業績の公表
①著書 【0 本】
②学術論文（査読あり） 【0 本】

③その他論文（査読なし） 【0 本】
④　学会発表等 【0 件】
⑤その他の公表実績 【0 本】
(2)科研費等の競争的資金獲得実績
なし
(3)特許等取得
なし
(4)学会活動等
日本看護研究学会 近畿・北陸地方会看護研究セミナー委員（令和 6 年 12 月 21 日 第 37 回セミナー実施）

５．地域・社会貢献活動

⑤JANPU(一社 日本看護系大学協議会)災害連携教員担当 R5.4～現在に至る

６．大学運営への参画

(1)補職
(2)委員会・チーム活動
看護学科内 実習検討委員会 2024 年度
(3)学内行事への参加
入学時オリエンテーション
(4)その他、自発的活動など
コミュニティ・ナース活動。福井県で独立看護師・保健師として株式会社 オリナスを起業した加藤瑞穂氏とともに地域に溶け込む“看護”活動への参画と、大学教員としてのバックサポートを継続中。7 月から Lpa でスタートした「こみかる ユース福井」活動にも協力中